

カワガラス *Cinclus pallasii* Temminck

【選定理由】

河川の上中流部で繁殖するが、近年は中流部での生息が激減しており、上流部でも繁殖個体数が半減している。また、河川により、あるいはその支流の系統によって繁殖個体が激減、あるいは消滅している地域が多くなっている。愛知県鳥類生息調査地点での繁殖期の確認数は、閨苅では現在1980年代の50～30%程度に減少し、県民の森では2000年代に激減して2013年以降記録がない。岩屋堂でも2004年以降に激減して、繁殖期の確認がなくなっている。

【形態】

全長 21～23cm。全身が黒褐色でずんぐりした体形。脚は黒褐色で前面が銀色。幼羽は、前頸から腹にかけて汚白色の斑がある。成鳥の虹彩は茶色。



愛知県豊田市, 2011年3月26日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張東部丘陵や半島および平野部を除く県内全域の、山間部の河川に生息する。繁殖は河川の上中流部に限られるが、上流部でも標高1,000m近い場所では繁殖期の記録がない。

【国内の分布】

九州以北と屋久島に生息し繁殖する。周年同じ地域に生息し、季節による長距離の移動はしないとされている。

【世界の分布】

アフガニスタン、トルキスタンからヒマラヤ、インドシナ北部から中国、台湾、朝鮮半島、ウスリー、サハリン、千島、カムチャツカに分布し2～4亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

山間部の河川や溪流に周年生息して繁殖する。なわばり性で、季節移動は少ない。水中を羽搏いて泳いだり、水底を歩いたりして水棲昆虫、甲殻類、魚類等を捕食する。溪流周辺の大きな岩の隙間や砂防ダムの穴、滝の裏側、橋脚と橋桁の間などにコケを使って球形の巣を作る。ビツ、ビツと鳴き、チーチージョイジョイなどと囀る。繁殖は他の小鳥類よりかなり早く、1月からディスプレイや巣作りの繁殖行動を始め、4月にはヒナが巣立ちを終える。

【現在の生息状況／減少の要因】

かつては県内の山間部を流れる河川の上中流部で普通に生息していたが、現在は平野部に近い中流部では激減、山間部でも生息数が半減している。河川やその支流の系統の中には比較的生息数の減少が軽微な地域も認められるが、県内全域では生息数が激減、あるいは消滅している地域がその大半を占めている。これまで県内山間部の全域で実施されてきた砂防ダムの建設や河川改修、およびその上にある道路の建設などを含め、工事によるシルト等の流入、コンクリートやアスファルト等による水質の悪化など、餌となる水棲生物を含む生物の生息環境全体の劣化が考えられる。

【保全上の留意点】

現在生息している地域の自然環境を保全することが第一である。

【特記事項】

愛知県鳥類生息調査地点で標高1,000m程度に位置する茶白山や段戸裏谷では、生息の記録はあるものの繁殖期の記録がない。繁殖の初期が厳冬期であり、凍結や積雪で生息できないものと推測される。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.240. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)